

2019年度 重点目標への取り組み

- (1) 子どもたち一人一人をよく見て必要なサポート
- (2) 子育てへの支援
- (3) 教職員の育成
- (4) 保育料無償化開始に伴う対応
- (5) 新型コロナウイルス感染拡大予防への対応

・専門分野からのアドバイザーとの連携→(1)(2)(3)

豊中市発達相談を長年にわたり担当していた言語聴覚士資格を持つ職員が副園長となり、個別の相談支援を充実させた。在園児はもとより、地域相談として登園の在園、卒園にかかわらず未就園の親子に対し、相談窓口を設けたため、未就園児の幼稚園選びの際に社会資源の利用や子育ての方針、方法に対して保護者の意向や状況を聞きながら情報提供や助言ができています。

また、外部より視覚情報の認識や身体操作についての専門家、作業療法士などを招き、生活の質を向上させることを目的とした個別の相談事業に対応している。

外部の専門家による意見や学校の集団生活の現場への巡回相談経験を持つ専門家の意見を取り入れることにより、担任のサポート、支援に関わる保育者の理解が深まりつつある。

・子育てへの支援→(2)(4)(5)

国策である保育料無償化が10月より始まり、市町村が窓口となるため、大きな混乱があったが、3つの市町村にまたがり園児が在籍するみくま幼稚園では、事務量の増大が許容量を超えることとなったため、セキュリティを最優先のこととして園独自のデータベースを作成し、無償化事務にかかる負担を減らすことはできたが、システム作成にかかる費用と担当者雇用にかかる費用は増すこととなった。

新型コロナウイルスによる2020年3月5月までの緊急的な休校期間では、この緊急メールシステムにより全保護者へ速やかに連絡をすることができたことと、幼稚園に登園できない子どもたち、自力だけで子どもたちの生活を引き受けなければならなくなった家庭に対し、動画の配信や情報の提供を送ることができた。

園独自のシステムの作成により、今後も通園バス単位やクラス単位、地区別など様々な小単位での緊急連絡を送ることができるよう今後も充実を目指す。

・教員の資質向上→(1)(2)(3)(5)

年末より新型コロナウイルス感染拡大の動きがあり、3月から緊急措置としての休校期間となったため、カリキュラムや行事の変更や中止、再開に向けての話し合いの連続、想定していても次々と起こる今までに経験のない事態に急きょ変更を余儀なくされることが連続し、マンパワーでしか乗り切ることができない状況となったことをうけ、職員間での結束は強まることとなった。子どもたちとの絆を体感できた稀有な機会であったとも言えたのかもしれない。

幼稚園に登園した子どもたちに保育をして降園させて、翌日、翌週を過ごすという日常生活が壊れたことにより、「離れていても一緒だよ」を合言葉に全職員が「今だからこそ子どもたちのためにしてやらなければならないこと」について、感染予防の消毒作業に始まり、保育の本質について議論をし、試行錯誤を重ねながら実践できたことは、職員同士のサポート、幼稚園の教職員の人間的な成長のための大きな財産としていきたい。

2020年度への課題

・保育環境、職場環境をまもる、充実させる

無償化のための複雑な事務の増大、新型コロナウイルス感染拡大予防のための毎日の清掃、消毒作業の増大、健康管理のための教職員の勤務時間の管理、有給休暇の取得、休校期間中における給与の休業保証など、今後も続く物理的な作業にかかる手間や、新たな気遣いに対する労力に対し、従来のマンパワーでの対応が困難であり、人員の増員や作業にかかる有料での発注など継続するための対応策が経営上の急務であり、園内にマンパワーを生かしたシステム作りが急がれている。

・年間カリキュラムを見つめ直す、深める

三密を避けることは集団感染を避けるために不可欠であるが、幼児期の社会性、人格形成に関わる大切な体験学習の場の保証をどのように両立させていくかについて、試行錯誤を重ねながら喫ししていく取り組みを一年の柱としたい。今こそ子どもたちのために幼稚園(学校)は何ができるのか問われている。

・大型修繕

感染拡大状況を踏まえ、園舎屋根の改修工事など、10年単位での改修計画を見直しながら、施設を安全に使用できるよう感染予防を見極めながら改修計画を実施していく。

4. 財務状況

学校法人 博陵学園

資金収支計算書

(単位:円)

科 目	2019年度
学生生徒等納付金収入	108,214,254
手数料収入	510,000
寄付金収入	707,000
補助金収入	58,100,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	21,816,597
受取利息・配当金収入	82,056
雑収入	3,085,897
借入金等収入	0
前受金収入	6,920,000
その他の収入	23,713,329
資金収入調整勘定	△ 7,489,000
前年度繰越支払資金	77,422,137
収入の部合計	293,082,270
人件費支出	133,382,911
教育研究経費支出	30,475,534
管理経費支出	31,698,278
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	34,694,808
設備関係支出	1,725,348
資産運用支出	15,908,730
その他の支出	25,732,169
資金支出調整勘定	△ 3,853,665
次年度繰越支払資金	23,318,157
支出の部合計	293,082,270

事業活動収支計算書

(単位:円)

科 目	2019年度
学生生徒等納付金	108,214,254
手数料	510,000
寄付金	707,000
経常費等補助金	58,100,000
付随事業収入	21,816,597
雑収入	3,085,897
教育活動収入計	192,433,748
人件費	133,382,911
教育研究経費	41,167,466
管理経費	32,365,733
徴収不能額等	0
教育活動支出計	206,916,110
教育活動収支差額	△ 14,482,362
受取利息・配当金	82,056
その他の教育活動外収入	0
教育外活動収入計	82,056
借入金等利息	0
その他の教育活動外支出	0
教育外活動支出計	0
教育活動外収支差額	82,056
経常収支差額	△ 14,400,306
資産売却差額	0
その他の特別収入	0
特別収入計	0
資産処分差額	4
その他の特別支出	0
特別支出計	4
特別収支差額	△ 4
基本金組入前当年度収支差額	△ 14,400,310
基本金組入額合計	△ 46,076,229
当年度収支差額	△ 60,476,539
前年度繰越収支差額	232,526,253
基本金取崩	0
翌年度繰越収支差額	172,049,714
(参考)	
事業活動収入計	192,515,804
事業活動支出計	206,916,114

貸借対照表

(単位:円)

資 産 の 部	
科 目	2019年度
固定資産	834,195,225
流動資産	12,940,135
資産の部合計	847,135,360
負 債 の 部	
科 目	2019年度
固定負債	0
流動負債	13,888,851
負債の部合計	13,888,851
純 資 産 の 部	
科 目	2019年度
基本金	661,196,795
繰越収支差額	172,049,714
純資産の部合計	833,246,509
負債及び純資産の部合計	847,135,360

財産目録

(単位:円)

1. 資産総額	847,135,360
Ⅰ 固定資産	834,195,225
Ⅱ 流動資産	12,940,135
2. 負債総額	13,888,851
Ⅰ 固定負債	0
Ⅱ 流動負債	13,888,851
3. 正味財産	833,246,509

2019年度 事業報告書

2019年4月 1日から

2020年3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園（昭和42年7月14日法人設立）

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名

監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催

評議員会 2回開催

職員 43名

2. 事業の概要

（ みくま幼稚園 ）

〈教育方針〉

たくましいからだとゆたかなこころ

〈教育内容〉

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

〈園児数〉

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	4	100	4	140	4	140	12	380
2017年度	4	112	4	115	4	110	12	337
2018年度	4	100	4	114	4	116	12	330
2019年度	4	80	4	95	4	115	12	290

〈保育時間〉

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

〈納付金〉

保育料 3歳児 年額324,000円（12分割均等納付）

4・5歳児 年額288,000円（12分割均等納付）

給食費 週3回 月額 4,320円

バス維持費 月額 3,000円

《入園時の費用》

入園料	3歳児	70,000円
	4・5歳児	60,000円
	4・5歳児	60,000円

《預り保育の時間及び費用》

月～金曜日 午後5時30分まで

夏冬春休み中の預り保育は午前11時30分～午後5時

《行事实施状況》

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、カレーパーティー。

《施設関係》

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

空調設備の取得、園庭遊具の保守・点検を実施した。

《設備関係》

遮熱テントシールド、ミラリスピーカー、ワイヤレスマイクの取得。

パソコン、勤怠管理システムの導入。

《長期計画》

平成26年及び平成37年に園舎を建替えるため、平成15年度から第2号基本金を設定し毎年計画的に資金を積んでいるが、本年も計画通り実施。期末残高は、170,000千円となった。

《事業報告》

2019年度の事業は、前年度より園児数が若干減少したものの、保護者の協力を得て役職員の真摯な努力により、着実に運営することができた。

2020年2月29日、安倍首相は、新型コロナウイルス感染抑制のため、3月2日から全国すべての小・中・高・特別支援校の臨時休業を発表した。更に、4月7日、緊急事態宣言を7都府県に発出し、4月17日、緊急事態宣言を全国に拡大、5月6日まで感染抑制のため、学校の臨時休業が要請された。医療機関が崩壊しないよう、感染数の推移から、5月4日、休業期限が5月末まで延長された。一方、経済・社会活動の再開について、知事の判断でそれぞれ進められることになった。

また、教育現場の再開の方策と合わせて、9月からの新学期が同時に検討されることになった。この先、予断を許さない状況が続くが、当園としては、保育再開後、感染防止に努めながら、如何に園児がスムーズに過ごせるか受け入れ態勢の整備を進めると共に、保護者と連携しながら準備を怠らないようにする。

さて、2019年10月より幼児教育の無償化が実施されているが、新制度移行の流れが緩やかになり、令和2年度、192園が私学助成を継続している。

一方、新型コロナウイルスの蔓延のため、経済状況は、大恐慌時以上に悪化している。3密・自粛の影響で、飲食業・鉄道業・航空業・旅行業等のサービス業の休業実施で、失業が大幅に増加しているため、昨年来の人手不足感が大幅に緩和され

ている。今まで、教員免許取得者が流れていた業界においても、採用抑制となることから、教職員採用においては、やや改善することが期待できる。

以上のことを踏まえ、当園としては、幼児教育の無償化への理解を深め、事業継続を踏むため、地域の乳幼児数の推移及び教職員採用計画を改めて練り直し、5年後の事業予想（中期事業計画）を作成し、リスク管理体制を整備する。合わせて、監督官庁の調査に、しっかりと対応出来るよう、事務組織を見直し、事務管理体制の確立に努める。

自己評価については、確実に実施し公表している。また、その自己評価の内容を、学校関係者評価委員会で検討し内容を別紙のとおりまとめた。内容を精査・検討し新年度の評価項目を策定することとした。

財務面では、事業活動収支計算書より、教育活動収入計が192,433千円（対前年比▲1.04%、194,461千円）、教育活動支出計206,914千円（対前年比▲1.30%、209,641千円）、教育活動収支差額▲14,482千円（前年度▲15,179千円）、経常収支差額比率▲7.48%（前年度▲6.80%）となった。

また、人件費比率（人件費／教育活動収入計＋教育活動外収入計）は、69.28%（前年度66.61%）となり、前年度より上昇した。翌年度繰越支払資金は、当年度の保持すべき資金（第4号基本金）の額を相当上回る額の支払資金を保持できているので、資金繰りは問題ない。

3. 財務状況 別紙参照。

令和2年度 事業計画書

令和2年4月 1日から

令和3年3月31日まで

学校法人博陵学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 博陵学園 (昭和42年7月14日法人設立)

代表者 理事長 安芸 志穂子

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

電話 06-6872-0210

FAX 06-6872-5993

設置する学校

住所 豊中市新千里西町2丁目23番2号

名称 みくま幼稚園

役員

理事 6名 監事 2名

評議員 13名

理事会 2回開催 評議員会 2回開催

職員 39名

2. 事業の概要

(みくま幼稚園)

〈教育方針〉

たくましいからだどゆたかなこころ

〈教育内容〉

子どもの生活体験を育み友人関係を基盤とした集団生活の中で、健康な体づくりと豊かな心の体験を培う保育内容の展開と実践

〈園児数〉

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
定員	4	100	4	140	4	140	12	380
2018年度	4	93	4	110	4	112	12	315
2019年度	4	84	4	102	4	113	12	299
2020年度	4	96	4	97	4	106	12	299

〈保育時間〉

月～金曜日 午前9時～午後2時

土曜日 休園

〈納付金〉

保育料 3歳児 年額336,000円 (12分割均等納付)

4・5歳児 年額300,000円 (12分割均等納付)

給食費 週3回 月額 4,320円

バス維持費 月額 3,600円

〈入園時の費用〉

入園料 3歳児 70,000円

4・5歳児 60,000円

〈預り保育の時間及び費用〉

月～金曜日 午後5時30分まで

夏冬春休み中の預り保育は午前11時30分～午後5時

〈行事实施状況〉

入園式、遠足、運動会、保育参観、クラス懇談会、ふれあい動物園、音楽会、表現活動発表会、マラソン大会、卒園式、

〈施設関係〉

園地総面積 3,821.5㎡ 運動場 2,660㎡

修繕費予算を12,000千円計上した。

〈設備関係〉

〈長期計画〉

平成26年及び平成37年に園舎を建替えるため、平成15年度から第2号基本金を設定し毎年計画的に資金を積んでいるが、本年も計画通り実施。

〈計画内容〉

平成27年度4月より子ども子育て支援新制度がスタートしたが、移行が進み、令和2年度は192園が私学助成で事業を継続している。当園は私学助成を継続し、新年度を迎える。また、令和元年10月より幼児教育無償化が実施されているが、特に出生数が戦後最小の86万4千人になり、将来の園児数の獲得もより厳しいものになっていくものだろうと想定されるため、それぞれの情報を収集し、情勢分析は欠かさないこととする。

新年度は、幼児教育の無償化が実施され、保護者の園を選ぶ判断基準が、「教育内容の充実」及び「預かり保育の時間」に集約されてきている。

採用については、極めて厳しい状況になっているので、安定した教員組織を維持することができる園が、持続可能な園であり、運営の最大のテーマになってきている。新卒の採用については、短大の減少が進み、4年制大学の養成校からの採用が中心となり、就職希望の3年生が対象となってきている。故に、一般企業と同じ土俵での採用競争となっている。また、保護者対応、増加傾向にある特別支援児への対応、クラス担任として自信が持てないと考える応募者が多く、募集をしても少数の応募となってしまっている。

一方、働き方改革の流れから、日本型雇用システム（新卒一括採用、終身雇用、年功序列賃金）が崩れ、企業は、通年採用の実施と、リファラル採用（社員に知り合い・友人を紹介してもらう採用方法）を進めている。本園でもリファラル採用（採用コスト削減及び自園の風土・園の教育方針に合致する教職員の採用）について、検討・研究を進める。

事業活動収支予算書の教育活動収支の部では、教育活動収入計が195,908千円（前年度184,704千円）、教育活動支出計は修繕費が嵩み236,263千円（前年度227,799千円）となり、教育活動収支差額40,354千円（前年度43,095千円マイナス）のマイナス、教育活動外収支差額100千円

のプラスとなり、経常収支差額は40,254千円のマイナスと厳しい経営状況となる。

2021年度の園児募集については、90名以上の園児確保を目指す。

《収支予算》

別紙のとおり

監 査 報 告 書


2020年 3月 31日

学校法人 博陵学園

理事会・評議員会 御中

学校法人 博陵学園

監 事

岩本式弘 

監 事

戸谷朋子 

私たちは、学校法人博陵学園の監事として、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第16条に基づいて同学園の2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）における業務及び財産の状況について、理事会その他重要会議に出席するほか、理事長から学校運営の報告を聴取し、重要書類を閲覧し、会計監査人から報告説明を受け、事業報告書及び計算書類等を調査いたしました。

監査の結果、私たちは、同学園の業務及び財産の状況に関して不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められませんでした。

また、財務に関する計算書類は学校法人会計基準に準拠しており、学校法人博陵学園の2020年3月31日現在の財務状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。

(注) 監事岩本式弘及び監事水野朋子とも私立学校法第38条第5項に定める外部監事であります。

みくま幼稚園

次第：

・園長挨拶、現在の状況報告

・「みくま幼稚園自己評価報告書」について学校評価委員による協議

自己評価にある重点目標への取り組みについての評価

1	子どもたち一人一人をよく見てサポート	
2	子育てへの支援	
3	教職員の育成	
4	保育料無償化に伴う対応	
5	新型コロナウイルス感染拡大予防への対応	

・評価の焦点

みくま幼稚園の自己評価について意見を交換し、今回は自己評価の中でも、幼稚園ができる子育て支援についての協議を深めた。

学校関係者から聞き取りや意見を出し合い、大学教員を議長とし、みくま幼稚園の自己評価中、主に子育て支援についての質的評価と今後の改善点などを話し合う。

：意見・提言（抜粋）

子育て支援について

毎年、年次初めに保護者と担任の面談があるが、年度末に総括としての面談の提案。子どもの育ちを重視することはわかっているが、保護者が幼稚園に来る機会が少ないので機会を作ることも考えていく。わざわざ手紙で書いたり、電話で伝えたりするようなことでなくても、ちょっと話せると保護者にとっては良い機会となるのではないか。

バスで通園している園児の保護者達はなかなか幼稚園に来て、担任たちと話す機会がないこともあり、子どもたちが非常に手厚く見てもらっているのはよくわかるが、コロナ問題も重なり、先生たちの業務負担、責任は大きくなっているため、心身の健康維持は大丈夫だろうかという心配がある。対面での機会を増やすことについては、感染予防上、難しい問題を孕むことも大きな懸念である。

特色ある保育について幼稚園の特長、長所をもっとうまく宣伝すればよいのと思う部分もある。

：園からの応答

担任たちには保護者と話をすることを指導しているが、あくまで担任は各クラス学級運営に関わることで話をするようにと伝えている。それ以外の保護者の悩みなどは相談担当者（園長、他）たちが聞くという方針をもっている。

全ての家庭の子育て、全ての子どもにサポートが必要と考えている。特別なサポートが必要な子どもはもちろん、一見、支援が必要なさそうな子どもたちに、出来事を捉えて、どのタイミングで何を支援していくか細やかな支援が重要な課題である。

園の特長は意図的に HP やメディアなどで宣伝はしていない。顔が見える範囲での口コミがやはり最大の広告ツールであり、また口コミで来てくれた方はある程度安心して受け入れることができる。今後は幼稚園規模を本幼稚園の運営と照らし合わせながら、細やかな対応ができる体制づくりを考えている。質の維持、および向上させながら、今後の少子化に対応した形で運営をしていきたい。

教職員の質的向上は良い職場づくりが基盤となるため、そのための努力を続けたい。

：議長からのコメント

保護者からの話を聞いていると、ストーリーをもってこの園を選び、また選ばれ、その後の園生活でも子どもたちとそのストーリーを共有しながら、成長していることがよく伝わってくる。また園内でのさりげない出会いやあまり園の主張を打ち出さないところこそ、保護者の自主性を引き出すような工夫があるのではないかという指摘があった。

・まとめ

本日の議論を総括して、概ね、子育て支援をはじめとして、自己評価における課題設定、その報告、今後の課題についての評価を確認した。実施可能な提案があったことは審議し、状況を選んで応えていきたいと園からのコメントもあった。

新卒採用教員の獲得は依然として困難な状況ではあり、幼稚園教諭の職務は保護者対応を含め負担の大きい仕事ではあるが、若い人材が育ちつつあることは組織としての大きな評価である。また、他の自己評価については現行のまま次年度への課題に取り組むことが求められ、感染予防にかかる大きな負担は生じていくこととは思われるが、幼稚園としての今後の課題への取り組み、対応について真摯な取り組みが求められる。